



## 羅針盤



佐藤 貴浩  
Takahiro Satoh

防衛医科大学校皮膚科学講座 教授

## 流す人，こだわる人

今月号は、皮膚科を始めようとする方々のためのフレッシュ特集です。医師としての人生を、皮膚科にかける決意をされた読者の方々に頼もしく思います。

さて、皮膚科学はきわめて広い領域の疾患を対象としますが、今回は“皮膚アレルギー診療入門”と題して特集を組ませていただきました。

日常診療では、アレルギー性疾患を避けて通ることは不可能でしょう。ただ、一口にアレルギー性皮膚疾患といってもその定義はあいまいですから、考え方によっては非常に多くの疾患を含むことになります。今回の特集では日頃よく出会う疾患を対象に、診療や検査方法のコツ、注意点などを各先生方に解説いただきました。

免疫学のめざましい発展にともなって、アレルギー患者にみられる不思議な現象、興味深い現象を少しずつ科学的かつ理論的に説明できるようになってきました。それにより、多くの方々にとって皮膚アレルギー診療が“とっつきやすい”ものになり、また、興味をひかれる方も多くなってきていると思います。近年のアレルギー学関連雑誌のインパクトファクターの上昇が、免疫学関連の雑誌のそれよりも目立っていることは、これらを反映しているのかもしれませんが。

読者の方々は、これから毎日多くの患者さんを、時間に追われながら診療していくことになります。よくわからない皮膚症状、不思議な症状、教科書の記載と合わない所見に遭遇すると思います。そんなとき“まあいいか、こんなことがあってもいいだろう”と無視して流してしまうか、たとえ忙しくても“どうしてだろう、何がおこったのだろう”とこだわってみるのかは、大きな分かれ道になります。さらに、“考えてみる”だけと、実際に行動をおこして“解明してみる”こととは、大きく違います。

皮膚科を始める方にはぜひとも“流さずにこだわって、何でもやってみる”ことを選択してもらいたいものです。はじめのうちは理由や損得を考えず、指導医にいわれるままに動いてみることもよいと思います。もちろん有意義な結果が得られることは、多くありません。しかし、些細なものでも一度知見や原因を見出す体験をすると、皮膚科のおもしろさを実感できます。あたりまえと思っていたことも、深く考えると不思議であるのに気づくことはよくあります。皮膚科の“常識”と信じられていた“非常識”を、見つけてみませんか。